

# 仕 様 書

品名: ラセンハンガー

品番: J35R-JP / J45R-JP

J60R-JP / J75R-JP

# JAPPY

因幡電機産業株式会社

### 1. 適用範囲

本仕様書は架空通信ケーブルの吊架に使用するラセンハンガーJ型(以下、ラセンハンガーという)について適用する。

### 2. 品番

品番	内径(mm)	らせんピッチ(mm)	質量(g)
J35R-JP	35	200	144
J45R-JP	45	245	147
J60R-JP	60	280	156
J75R-JP	75	360	156

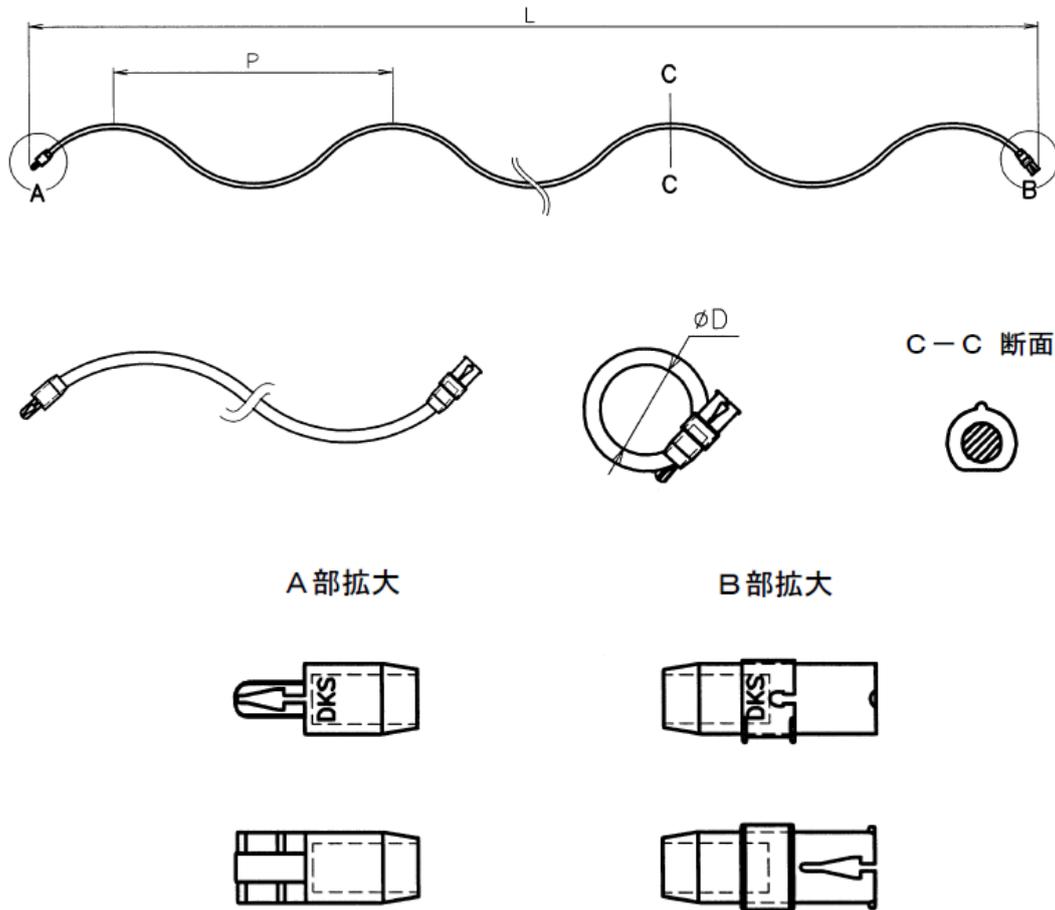
### 3. 材料

ラセンハンガーに使用する材料は、下表の材料又はこれと同等以上の材料を用いる。

部品名	材料名
芯材	JIS G 3506「硬鋼線材」に規定するSWRH77、又はこれと同等以上の性能を有する線材。
被覆材	ポリエチレン成形材を主体とした合成樹脂、又はこれと同等以上の性能を有する材料を使用する。 色は、黒色(JIS Z 8721 に準拠したN1)を標準とする。
連結部材	ポリアセタール樹脂を主体とした合成樹脂。 色は、黒色(JIS Z 8721 に準拠したN1)を標準とする。

#### 4. 形状および寸法

ラセンハンガーの形状および寸法は、下図のとおりとする。



単位: mm

品番	規格	らせん	らせんピッチ	長さ
		径D	P	L
J型35-R		35±3.0	200±20	+50 1500 -0
J型45-R		45±4.0	240±24	+50 1500 -0
J型60-R		60±4.0	280±24	+50 1500 -0
J型75-R		75±5.0	360±36	+50 1500 -0

## 5. 性能

項 目			規 格	試験方法 適 用 項	
完 成 品	外 観 試 験		使用上有害なキズ・ワレ・変形・その他異常のなきこと	6-1	
	構 造 試 験		規定公差内であること	6-2	
	耐荷重試験		147 N(15kgf)の荷重を1時間加えたとき、ラセンハンガーが支持具より脱落しないこと	6-3	
	接続・連結強度試験		196 N(20kgf)の荷重を1時間加えたとき、破損しないこと。また連結が解けないこと	6-4	
	耐候性試験		ヒビ、ワレ等使用上有害な欠点が生じないこと	6-5	
被 覆 材	引 張 試 験	常 温	引張強さ	10MPa 以上	6-6(1)
			伸 び	350%以上	
		加 熱 後 残 率	引張強さ	加熱前の値の 80%以上	6-6(2)
			伸 び	加熱前の値の 65%以上	

## 6. 試験項目及び試験方法

### 6-1. 外観試験

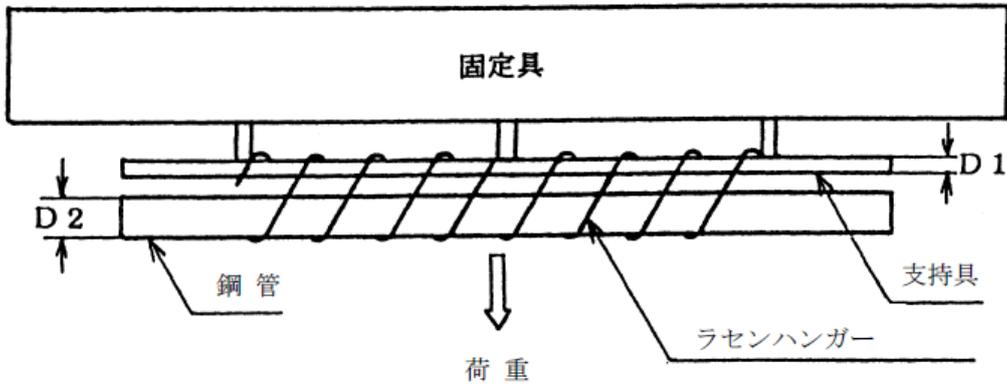
完成品について、目視または手触りにより使用上有害なキズ・ワレ・変形・その他異常の有無について調べる。

### 6-2. 構造試験

完成品について目視及び適当な度器を用い、5 項の事項について行う。

### 6-3. 耐荷重試験

完成品を下図に示す方法で、固定具に垂直に規定の荷重を1時間かける。

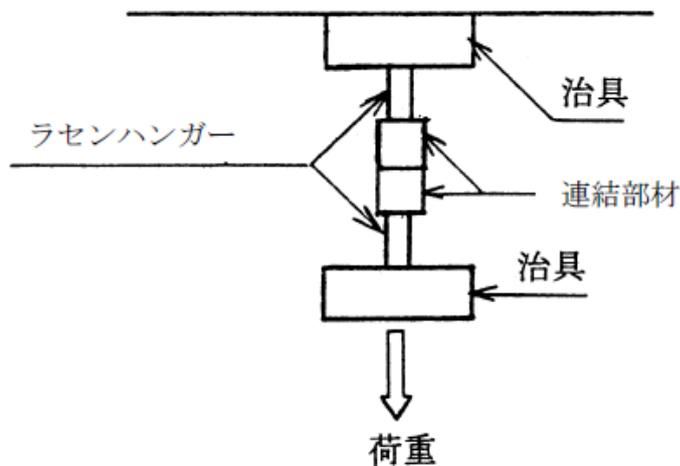


耐荷重試験で使用する治具の種類

種類	35	45	60	75
支持具 D1(mm)	φ13	φ13	φ13	φ13
鋼管 D2(mm)	φ20	φ20	φ32	φ60

### 6-4. 耐荷重試験

下図に示す方法で垂直に規定の荷重を1時間かけ、試験を行う。尚、試料は完成品より試験対象箇所を切断採取する。また、試料の大きさは試験装置の関係上適当な長さにする事ができる。



#### 6-5. 耐候性試験

完成品を JIS A 1415 (高分子系建築材料の実験室光源による暴露試験方法)によって行い、装置はWS形を用いる。尚、試験時間は 2000 時間とし、ブラックパネル温度は  $63\pm 3^{\circ}\text{C}$ 、スプレーサイクルは、原則的に 120 分中 18 分とする。

尚、試料の大きさは試験機の関係上適当な長さに切ることができる。

#### 6-6. 引張試験

完成品と同一の材料を試験片とし、JIS K 7161-1 (プラスチックー引張特性の求め方 第1部)、JIS K 7161-2 (プラスチックー引張特性の求め方 第2部)に基づき行う。

##### (1) 常温引張試験

引張速度: 50 mm /min

##### (2) 加熱後引張試験

試験片を  $90\pm 2^{\circ}\text{C}$  の恒温試験機内で 96 時間加熱させた後取り出し、室温で放置し 12 時間以上 48 時間以内に試験する。

引張速度: 50 mm/min